



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月10日

上場会社名 東邦亜鉛株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5707 URL <https://www.toho-zinc.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤正人
 問合せ先責任者(役職名) 経理部長 (氏名) 田邊正樹 (TEL) 03-6212-1716
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	31,283	△6.0	△1,767	—	△2,787	—	△2,836	—
2023年3月期第1四半期	33,277	16.5	3,209	△7.2	3,091	△10.9	2,616	△11.3

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △1,537百万円(—%) 2023年3月期第1四半期 9,851百万円(141.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△208.92	—
2023年3月期第1四半期	192.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	149,006	47,963	32.2
2023年3月期	142,999	50,519	35.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 47,963百万円 2023年3月期 50,519百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	75.00	75.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	69,000	△6.4	100	△97.8	△1,300	—	△1,700	—	△125.20
通期	140,000	△4.0	2,500	△38.3	1,000	△68.1	500	△37.1	36.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	13,585,521株	2023年3月期	13,585,521株
2024年3月期1Q	7,625株	2023年3月期	7,620株
2024年3月期1Q	13,577,896株	2023年3月期1Q	13,578,062株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2023年8月10日(木)に機関投資家、証券アナリスト向け説明会をオンラインで開催する予定です。この説明会で使用する資料につきましては、決算発表と同時にTDnet及び当社ホームページで開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の連結業績は以下のとおりです。売上高は前年同期比で減収、営業利益・経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で減益となりました。

(単位：百万円)

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)
売上高	33,277	31,283	△1,994 (△6)
営業利益又は営業損失 (△)	3,209	△1,767	△4,977 (－)
経常利益又は経常損失 (△)	3,091	△2,787	△5,878 (－)
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失 (△)	2,616	△2,836	△5,453 (－)

《経営環境》

当第1四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く事業環境は以下のとおりです。

金属相場、特に亜鉛は、需要面で最大の消費国である中国の景気回復懸念、供給面で電力代高騰により操業調整していた欧州製錬所の生産再開などで需給が緩み、期を通じて下落基調となりました。前年同期は亜鉛相場高であったこともあり、前年同期比では大幅安となりました。

一方為替相場は、日米金利差を背景に円安米ドル高基調が続きました。また、対豪ドルでも円安となりました。

販売面では、前期末に行った在庫削減施策の影響で期初に銀が減産となったこともあり、銀製品が前年同期比で減販となりました。

《売上高》

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、製錬事業における亜鉛の相場安や銀の減販、資源事業におけるラズプ鉱山の減販もあり、前年同期比で減収となりました。

《利益》

損益面では、製錬事業は亜鉛相場安によるフリーメタル収入減や在庫評価損の計上などにより損失となりました。ラズプ鉱山は期待された高品位鉱体の実際の採掘が2024年度期初へ後ろ倒しとなり粗鉱品位が下がり減産となった事、当四半期より本格的に操業を開始したアブラ鉱山も操業立ち上げ初期段階の要因により損失が先行した事により、資源事業も損失となりました。環境・リサイクル事業もエネルギーコストや諸資材高騰からの原価高により減益、その他の事業も減益となった結果、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益ともに損失を計上するに至りました。

セグメントの業績は次のとおりであります（以下、各セグメントの売上高には、セグメント間売上高を含みません）。なお、セグメント利益又は損失について、従来は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、経常利益と調整を行うこととしました。

また、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、経常利益と調整を行ったセグメント利益により作成したものを記載しております。

① 製錬事業部門

(単位：百万円)

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)	
売上高	28,288	26,004	△2,284	(△8)
経常利益又は経常損失 (△)	2,014	△610	△2,625	(-)

《亜鉛》

販売量は前年同期並みだったものの、相場下落影響が大きく前年同期比28%の減収となりました。

《鉛》

増販に加え、円安の影響で国内販売価格が上昇したこともあり、前年同期比9%の増収となりました。

《銀》

相場は前年同期比で高かったものの、減販の影響が大きく、前年同期比16%の減収となりました。

以上のほか、硫酸などその他の製品を合わせた当事業部門の業績は、売上高については上記のとおり減収となりました。

損益については、昨年度からの電力代や諸資材価格の高騰が継続していることに加えて、亜鉛は相場安によるフリーメタル収入減や委託加工賃増、在庫評価損の計上、鉛・銀は、金等のその他製品の減益などにより、事業部門全体で26億円強の経常損失を計上するに至りました。

なお、金属相場（平均）及び為替相場（平均）の推移は下表のとおりであります（米ドル/豪ドルの通期は1月-12月に対応します）。

区 分	亜鉛		鉛		銀		為替レート	
	LME相場	国内価格	LME相場	国内価格	ロンドン 相 場	国内価格	円/米ドル	米ドル/ 豪ドル
2021年度								
第1四半期	2,916	370,967	2,127	291,400	26.7	95,400	109.49	0.7726
第2四半期	2,991	383,167	2,341	319,233	24.4	87,843	110.11	0.7701
第3四半期	3,365	437,167	2,331	325,567	23.3	86,687	113.71	0.7351
第4四半期	3,743	487,600	2,334	329,667	23.9	91,017	116.20	0.7286
(通期平均)	3,254	419,725	2,283	316,467	24.6	90,237	112.38	0.7516
2022年度								
第1四半期	3,925	563,900	2,203	348,233	22.6	96,007	129.57	0.7230
第2四半期	3,269	504,533	1,976	335,067	19.2	86,870	138.37	0.7150
第3四半期	3,004	477,867	2,100	357,867	21.2	98,067	141.59	0.6832
第4四半期	3,130	468,967	2,141	345,100	22.6	97,617	132.34	0.6566
(通期平均)	3,332	503,817	2,105	346,567	21.4	94,640	135.47	0.6945
2023年度								
第1四半期	2,540	405,400	2,118	356,033	24.2	108,390	137.37	0.6850

② 環境・リサイクル事業部門

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)
売上高	1,381	1,384	3 (0)
経常利益	516	123	△393 (△76)

主力製品の酸化亜鉛（主用途：タイヤ製造のための原料）は、亜鉛相場安も増販となりました。しかしながら、エネルギーコストや諸資材高騰の影響もあり、当事業部門の業績は、売上高は前期並みとなるも、前年同期比で減益となりました。

③ 資源事業部門

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)
売上高	3,024	2,049	△974 (△32)
経常利益又は経常損失 (△)	733	△2,445	△3,178 (-)

豪州CBH社では、ラスプ鉱山においては高品位鉱体の実際の採掘が2024年度期初へ後ろ倒しとなり粗鉱品位が低下し減産となった事、当四半期より本格的に操業を開始したアブラ鉱山も操業立ち上げ初期段階の要因により損失が先行した事と開発に伴う金利負担により、持分法投資損失を9億円強計上しました。以上の要因から当四半期は前年同期比で減収減益となり、24億円の経常損失を計上するに至りました。

④ 電子部材・機能材料事業部門

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)
売上高	1,456	1,471	14 (1)
経常利益	243	132	△110 (△45)

《電子部品》

電子部品事業は、車載電装向けが堅調に推移し、前年同期比で19%の増収となりました。

《電解鉄》

航空機用特殊鋼需要は回復傾向にあるものの、国内の車載向けや半導体装置向けの特種鋼需要が落ち込み、売上高は前年同期比3%の減収となりました。

以上のほか、プレーティング事業及び機器部品事業を合わせた当事業部門の業績は、プレーティング事業で減収となったこともあり、売上高は前年同期並みとなりました。損益は、電子部品事業で滞留在庫の処分損失計上、電解鉄やプレーティング事業でも減収に伴う固定費負担増などもあり、13億円の経常利益と前年同期比で減益となりました。

⑤ その他事業部門

(単位：百万円)

	2022年6月期	2023年6月期	増減 (増減率%)
売上高	2,562	2,357	△204 (△8)
経常利益	209	174	△34 (△17)

防音建材事業、土木・建築・プラントエンジニアリング事業、運輸事業、環境分析事業等からなる当事業部門の業績は、運輸事業で運送荷物やリサイクル原料等の扱い量が減少したことなどもあり、前年同期比で減収減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、原料鉱石の前渡金増加などもあり、前連結会計年度末に比べ60億6百万円増加し、1,490億6百万円となりました。

負債については、運転資金需要への対応から有利子負債が増加したことなどもあり、前連結会計年度末に比べ85億62百万円増加し、1,010億42百万円となりました。

純資産は、相場下落による繰延ヘッジ益の計上があったものの、当第1四半期の損失計上や配当支払いなどもあり、前連結会計年度末に比べ25億55百万円減少し、479億63百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は32.2%となり、前連結会計年度末に比して、3.1ポイント下落しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の連結業績は、亜鉛相場安や鉱山の操業不調などもあり、前回（2023年5月12日公表）の第2四半期累計期間予想を上回る損失を計上する結果となりました。しかしながら、同予想は第1四半期に損失を計上し、その後は第2四半期に向けて戻していくことを想定しておりました。従いまして、第2四半期以降の金属相場等の市況の動向なども鑑み、第2四半期累計期間の業績については前回予想を据え置くことといたしました。また、通期業績予想及び配当予想についても、同様の理由による前回予想を据え置くことといたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,536	10,034
受取手形、売掛金及び契約資産	16,128	18,078
電子記録債権	938	1,139
商品及び製品	9,490	9,322
仕掛品	14,998	15,391
原材料及び貯蔵品	22,968	22,639
その他	2,557	5,283
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	76,618	81,889
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,890	6,901
機械装置及び運搬具（純額）	10,193	10,375
土地	16,605	16,605
その他（純額）	2,378	2,169
有形固定資産合計	36,068	36,051
無形固定資産		
鉱業権	14,147	14,590
その他	48	46
無形固定資産合計	14,196	14,637
投資その他の資産		
投資有価証券	10,698	10,195
退職給付に係る資産	863	866
その他	5,443	6,254
貸倒引当金	△887	△888
投資その他の資産合計	16,117	16,428
固定資産合計	66,381	67,116
資産合計	142,999	149,006

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,749	11,625
短期借入金	32,835	36,873
1年内返済予定の長期借入金	6,419	7,022
コマーシャル・ペーパー	6,000	10,000
未払法人税等	393	104
引当金	282	275
資産除去債務	436	437
その他	8,317	5,345
流動負債合計	62,433	71,682
固定負債		
長期借入金	21,118	20,404
引当金	488	506
退職給付に係る負債	124	129
資産除去債務	3,830	3,833
再評価に係る繰延税金負債	4,173	4,173
その他	311	311
固定負債合計	30,046	29,360
負債合計	92,480	101,042
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,630	14,630
資本剰余金	9,876	9,876
利益剰余金	14,563	10,708
自己株式	△31	△31
株主資本合計	39,040	35,185
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	371	458
繰延ヘッジ損益	△539	725
土地再評価差額金	8,610	8,610
為替換算調整勘定	2,585	2,551
退職給付に係る調整累計額	451	431
その他の包括利益累計額合計	11,479	12,778
純資産合計	50,519	47,963
負債純資産合計	142,999	149,006

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	33,277	31,283
売上原価	28,235	31,118
売上総利益	5,042	164
販売費及び一般管理費	1,832	1,932
営業利益又は営業損失(△)	3,209	△1,767
営業外収益		
受取利息	15	26
受取配当金	47	41
持分法による投資利益	126	-
為替差益	139	192
その他	77	139
営業外収益合計	405	400
営業外費用		
支払利息	134	211
持分法による投資損失	-	943
その他	388	264
営業外費用合計	523	1,419
経常利益又は経常損失(△)	3,091	△2,787
特別利益		
固定資産売却益	1	78
投資有価証券売却益	17	26
特別利益合計	19	104
特別損失		
固定資産除却損	30	31
投資有価証券売却損	11	2
特別損失合計	42	34
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,068	△2,716
法人税、住民税及び事業税	544	84
法人税等調整額	△92	35
法人税等合計	451	120
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,616	△2,836
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,616	△2,836

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,616	△2,836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△48	87
繰延ヘッジ損益	4,993	1,265
為替換算調整勘定	2,304	△34
退職給付に係る調整額	△15	△19
その他の包括利益合計	7,234	1,299
四半期包括利益	9,851	△1,537
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,851	△1,537
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	環境・リ サイクル	資源	電子部材・ 機能材料	計				
売上高									
外部顧客への売上高	27,976	1,381	1,288	1,456	32,102	1,174	33,277	—	33,277
セグメント間の内部 売上高又は振替高	312	—	1,735	—	2,048	1,388	3,436	△3,436	—
計	28,288	1,381	3,024	1,456	34,151	2,562	36,713	△3,436	33,277
セグメント利益	2,014	516	733	243	3,508	209	3,717	△626	3,091

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、土木・建築・プラントエンジニアリング、運輸、環境分析等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△626百万円には、セグメント間取引消去△243百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△382百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	環境・リ サイクル	資源	電子部材・ 機能材料	計				
売上高									
外部顧客への売上高	25,735	1,384	1,543	1,471	30,135	1,147	31,283	—	31,283
セグメント間の内部 売上高又は振替高	268	—	506	—	775	1,210	1,985	△1,985	—
計	26,004	1,384	2,049	1,471	30,910	2,357	33,268	△1,985	31,283
セグメント利益又は 損失(△)	△610	123	△2,445	132	△2,799	174	△2,625	△161	△2,787

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、土木・建築・プラントエンジニアリング、運輸、環境分析等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△161百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△163百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期において、豪州Abra鉱山の本格生産が開始し、資源事業における持分法投資損益の重要性が増しております。これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、当社取締役会等の経営意思決定機関において、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための経営指標として経常利益を用いることとなりました。これによりセグメント利益又は損失について、従来は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っておりましたが、経常利益と調整を行うこととしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、経常利益と調整を行ったセグメント利益により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製錬	環境・リ サイクル	資源	電子部材・ 機能材料	計		
亜鉛製品	9,938	—	—	—	9,938	—	9,938
鉛製品	6,222	—	—	—	6,222	—	6,222
電気銀	9,833	—	—	—	9,833	—	9,833
硫酸	453	—	—	—	453	—	453
環境・リサイクル製品	—	1,478	—	—	1,478	—	1,478
鉱石販売等	—	—	1,468	—	1,468	—	1,468
電子部品	—	—	—	637	637	—	637
電解鉄	—	—	—	381	381	—	381
防音建材	—	—	—	—	—	344	344
土木・建築・プラントエンジニアリング	—	—	—	—	—	304	304
その他	3,782	—	—	438	4,220	525	4,745
顧客との契約から生じる収益	30,230	1,478	1,468	1,456	34,633	1,174	35,808
その他の収益	△2,253	△96	△180	—	△2,530	—	△2,530
外部顧客への売上高	27,976	1,381	1,288	1,456	32,102	1,174	33,277

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、土木・建築・プラントエンジニアリング、運輸、環境分析等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製錬	環境・リ サイクル	資源	電子部材・ 機能材料	計		
亜鉛製品	7,140	—	—	—	7,140	—	7,140
鉛製品	6,763	—	—	—	6,763	—	6,763
電気銀	8,212	—	—	—	8,212	—	8,212
硫酸	279	—	—	—	279	—	279
環境・リサイクル製品	—	1,467	—	—	1,467	—	1,467
鉱石販売等	—	—	1,191	—	1,191	—	1,191
電子部品	—	—	—	760	760	—	760
電解鉄	—	—	—	368	368	—	368
防音建材	—	—	—	—	—	348	348
土木・建築・プラントエンジニアリング	—	—	—	—	—	258	258
その他	3,577	—	—	342	3,919	540	4,460
顧客との契約から生じる収益	25,973	1,467	1,191	1,471	30,104	1,147	31,252
その他の収益	△237	△82	351	—	30	—	30
外部顧客への売上高	25,735	1,384	1,543	1,471	30,135	1,147	31,283

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、土木・建築・プラントエンジニアリング、運輸、環境分析等を含んでおります。